

富士市立中央病院第二次中経営改善計画 総括

○設定値に対する実績 ※「新改革プラン」策定に伴い、平成28年度以降の設定値が見直されている。

(1) 医療機能等指標

…達成

指標名	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
紹介率(%)	65.0	61.1	65.0	63.2	65.0	66.9	70.0	67.9	70.0	72.6
逆紹介率(%)	40.0	52.0	40.0	52.3	40.0	54.1	50.0	55.6	50.0	60.7
救急患者数(人)	—	9,388	—	9,757	10,200	9,605	10,700	9,133	11,200	9,351
手術件数(件)	—	3,729	—	3,788	3,810	3,804	3,850	4,010	3,850	3,931
患者さんアンケートによる地域貢献度(%)	—	74.3	—	80.6	☆74.9	74.9	85.0	84.0	85.0	84.3
患者さんアンケートによる当院推薦度(%)	—	85.2	—	88.0	☆84.8	84.8	90.0	86.2	90.0	88.5
退院調整実施率(%)	—	—	—	—	7.5	7.7	10.6	19.6	10.9	33.9
病診連携 高度医療機器利用件数(件)	—	1,534	—	1,654	1,850	1,815	1,870	1,815	1,890	1,795

(2) 経営等指標

指標名	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
経常収支比率(%)	97.5	102.8	101.8	99.3	97.7	99.5	96.2	100.1	98.4	99.3
医業収支比率(%)	92.9	98.0	97.1	94.2	93.6	95.3	93.9	94.3	95.5	93.2
薬品費対医業収益比率(%)	13.4	13.5	14.1	16.9	14.9	14.7	14.4	13.9	13.5	14.7
診療材料費対医業収益比率(%)	10.9	11.8	11.3	11.3	12.0	12.0	11.7	12.0	11.7	11.0
給与費対医業収益比率(%)	60.7	56.0	57.4	57.0	58.5	58.5	58.5	59.0	57.9	59.8
病床利用率(%)	82.7	84.1	83.1	78.7	84.6	85.9	85.6	84.9	85.6	84.2
1日平均入院患者数(人)	430.0	437.2	432.0	409.4	440.0	446.6	445.0	441.4	445.0	437.6
1日当たり入院診療単価(円)	50,000	52,352	52,061	53,059	53,500	53,375	54,300	55,709	54,843	56,629
1日平均外来患者数(人)	960.0	922.2	960.0	937.3	960.0	970.8	960.0	956.3	960.0	946.1
1日当たり外来診療単価(円)	12,100	12,954	12,233	15,835	14,500	14,519	14,300	14,238	14,443	14,927
医師数(人)	—	86	—	89	☆90	90	96	94	99	98
看護師数(人)	—	421	—	444	☆457	457	478	478	505	483
看護師の離職率(%)	—	3.8	—	5.4	6.0	5.9	6.0	7.1	6.0	5.0

☆「新改革プラン」策定時点で実績が確定していた項目

収益に関する指標については、柱となる入院診療単価・外来診療単価とも最終年度では目標値を上回り、急性期病院として専門的な診療を行うことができたと評価できる一方、患者数は入院・外来とも目標値を下回った。

費用に関する指標については、特に職員数増加(※1)に伴う給与費の伸びが収益の伸びを上回り、職員給与費対医業収益比率が5年連続で悪化した。職員数増加が収益の改善にうまく結びついていない結果となった。

地域連携の指標となる紹介率と逆紹介率はどちらも最終年度に目標値を大きく上回った。平成29年度に地域医療支援病院に承認され、より一層病診・病病連携が進んだといえる。

新改革プラン策定に伴い追加した患者さんの評価については、地域貢献度・当院推薦度とも目標値を下回ったが年々向上しており、患者さんから一定の評価を得ているといえる。

病院の事業規模は、一般会計からの繰入金を除く収益額(※2)を比較すると、この5年間で15%増となり、また医師数も増加しており、医療提供による市民への貢献度は確実に伸びているといえる。しかし、収支(※3)の悪化が進みつつあることに注視し、今後はより効率的な病院運営を行っていく必要がある。

各事業の取組については、懇話会委員からの意見にもあるように、「患者サービスの向上」と「良質な医療の提供」については概ね評価できるが、「経営基盤の強化」については取組に対する評価も低く、改善の余地がある結果となった。改善計画を進めていく中では、より経営面を意識した運営が必要であると認識した。

令和元年度より始まった第三次中期経営改善計画では、現時点での課題解決だけでなく、今後の当院のあり方を明確にし、先を見据えた取組が必要となってくる。そのために、改めて当院の現状を全職員が認識し、一人ひとりがコスト意識をもって取り組むとともに、新たな収入増加に結びつく活動に積極的に関わっていただける体制を構築していく。

【参考】収益額等推移

単位：千円、人

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
A.総収益	12,325,592	13,057,256	13,430,146	13,953,447	14,438,639	14,585,222
B.総費用	12,564,349	16,819,399	13,527,791	14,029,621	14,419,721	14,684,670
C.一般会計繰入金	1,091,949	1,364,235	1,468,932	1,397,554	1,619,057	1,668,057
純損益 (A-B)	-238,757	-3,762,143	-97,645	-76,174	18,918	-99,448
※2 総収益 - 繰入金 (A-C)	11,233,643	11,693,021	11,961,214	12,555,893	12,819,582	12,917,165
※3 純損益 - 繰入金 (A-C-B)	-1,330,706	-5,126,378	-1,566,577	-1,473,728	-1,600,139	-1,767,505
※1 職員数	768	801	844	887	927	937

*平成26年度は、会計基準の変更に伴い、主に退職給付引当に係る特別損失(約41億円)を費用に計上している。